

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	理工学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 科目の先修関係を2011年度中に図表化し、科目の配置に問題がないか点検し、学生に履修用資料として公開する。	→当該資料、およびその点検と公表の状況。	B	B	B	B	A
2. 大学での授業理解に必要な学力が不足する学生に対し、これを身につけさせるための仕組みを整備する。	→リメディアル教育プログラム、および2013年度の改訂カリキュラム。	C	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか各学科ごとに授業科目間の依存関係を明示した資料を作成している。この資料は授業科目の先修関係や教育体系の点検資料、学生の履修選択の指導資料として利用が可能である。ただし、学科ごとに授業科目間の依存関係の意味合いが統一されていないので、公開はされていない。それに基づき各学科・専攻・コースごとの履修モデルを作成し、2013年度に公表した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各学科・専攻・コースごとの履修モデルにより学生の履修科目の計画立案は容易になった。その一方で履修科目が画一的になり、学生の興味に基づく多様性が失われる傾向がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 各学科・専攻・コースごとの履修モデルだけでなく、専門分野に応じたより多様な履修モデルの作成を行う。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入学時の数学の学力不足に対応するために、2010年度から新入生を対象に「数学基礎力テスト」に基づく数学リメディアルプログラムを開始した。2010年度には物理学科、情報科学科、人間システム工学科の3学科で実施し、2011年度からはさらに化学科と生命科学科を加えた5学科で実施している。数理科学科でも独自の数学テストを行っている。また、2013年度にはカリキュラム改訂を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 新入生の入学時における数学力を把握することができ、学生には数学の重要性を再認識させることができた。数学以外の高校基礎科目である理科や英語に対しても同様の試みをするべきであるが、現状は教員のボランティア活動に頼っており、その拡大は難しい。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学生や基礎教育担当教員に「数学基礎力テスト」等の有効性の調査を行い、基礎学力が不足する学生を支援するためのリメディアル教育の充実へと発展させる。	☆
		その他	☆
備考			☆